



“心から心へ” 卒業生から祝福の声

煙山小吹奏楽部が演奏するうえで掲げている目標「心から心へ」には、演奏に自分の思いを乗せて伝えることを大切に
する、といった意味が込められています。東日本学校吹奏楽
大会への初出場、そして金賞獲得には、これまで、先輩から
後輩へ、伝えられてきた思いがありました。

同校から矢巾中、矢巾北中に進学し、現在も吹奏楽に打ち
込んでいる生徒から、母校が果たした快挙への思い、小学校
時代の思い出などを語ってもらいました。



深田ほのかさん
(矢巾北中3年)



朴田有希奈さん
(矢巾中3年)

田中先生は厳しい先生でし
たが、吹奏楽でも、それ以外
の面でも、私たちに真剣に向
き合ってくれたことが印象に
残っています。

私たちの代では、当時の目
標だった東北大会出場を果た
しました。そして、後輩たち
が新たな目標を掲げ、かなえ
たことを卒業生として誇りに
思います。

煙山小時代は、私たちの
代も「心から心へ」を目標
に、お客さんの心へ、訴えた
ことを伝えられるような演
奏を目指して、練習に取り組
んでいました。東日本の大会

は、実際に現地まで行って聴
いてきましたが、自分が煙山
小吹奏楽部で演奏していた頃
より、格段にすばらしい演奏
だったと思います。



練習に打ち込む煙山小吹奏楽部の児童と田中教諭（左上）

今まで、たくさんの練習を積み重ねたことだと思いません。自分が活動していた部が、東日本大会への出場を決めたことがうれしい。煙山小吹奏楽部での経験は、中学校で吹奏楽に取り組む中で、自分を支えてくれる自信になっています。



高沢晴香さん
(矢巾北中3年)

東日本大会での演奏は、聴いていて、後輩たちの気持ちに伝わってくるようでした。煙山小吹奏楽部では部長を務めていて、みんなで楽しく演奏することができ、練習や大会を通して、みんなで一つのことに取り組むことの大切さを学ぶことができました。



久米川心さん
(矢巾中1年)

朝練があるときには、みんなで学校の昇降口が開く前には登校していました。そのときは大変でしたが、今では懐かしく、楽しかった思い出として残っています。後輩たちには、東日本大会に出場するまでに、関わったたくさんの方たちへの感謝を忘れないでほしいと思います。



佐々木愛佳さん
(矢巾北中3年)

心に響いてくる演奏で、すごいと思いました。県、東北、東日本と、各大会の演奏を全て聴いてきましたが、大会が進むにつれて、技術的な面でもさまざまな工夫がされて、どんどん上手くなっていることを感じました。



松越愛梨さん
(矢巾中2年)